
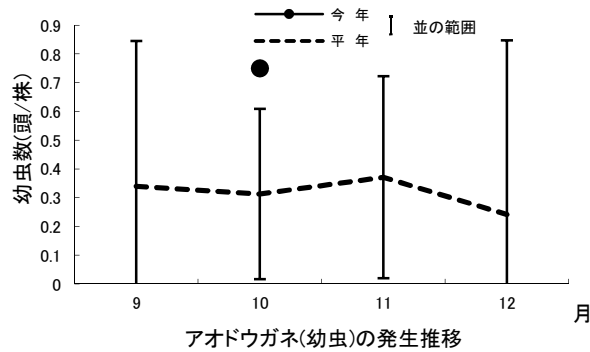


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① アオドウガネ		
10月の発生量(現況)	やや多		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	幼虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

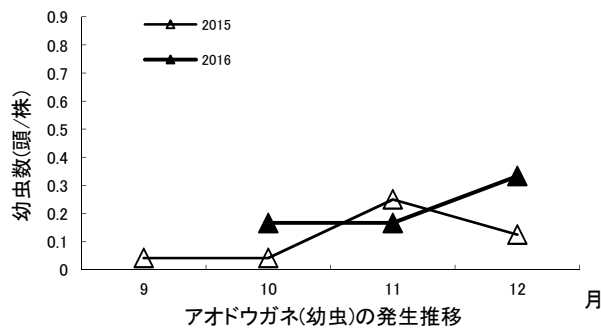
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 10月下旬の調査の結果、株当たり幼虫数は0.8頭(前年0.2頭、平年0.3頭)と平年よりやや多かった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

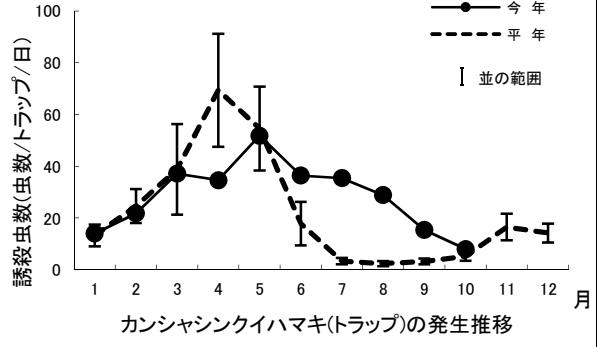
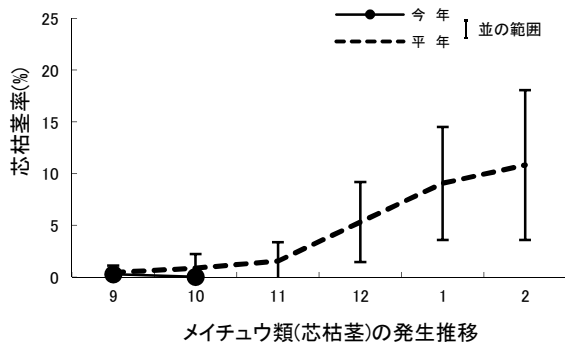
- ・ 若齢幼虫を防除するため、培土時に粒剤を処理する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
10月の発生量 (現況)	並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

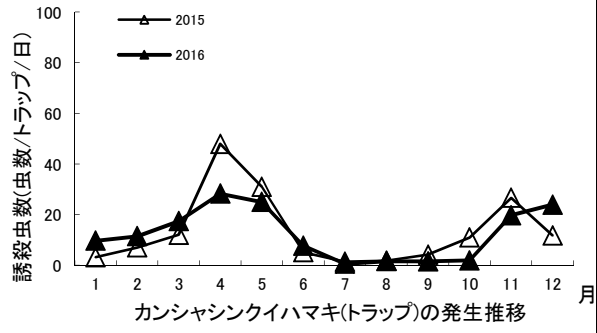
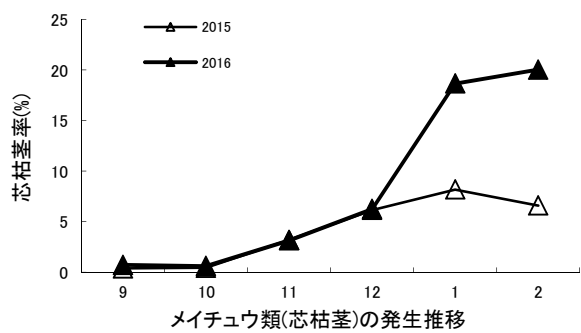
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 10月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は0.1%未満 (前年0.6%、平年0.9%) と平年並であった。
- ・ 10月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は8.0頭 (前年1.9頭、平年5.2頭) と平年よりやや多かった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

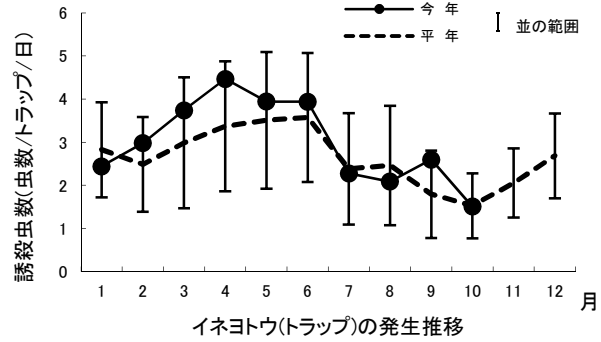
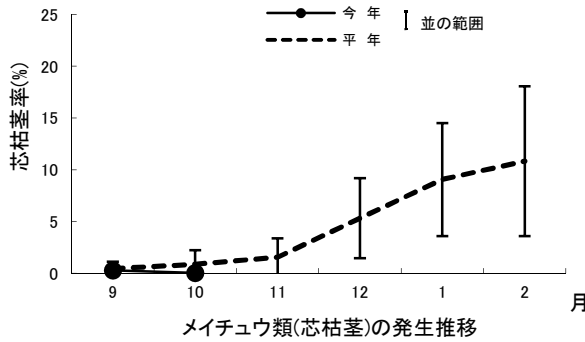
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)		
10月の発生量 (現況)	並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

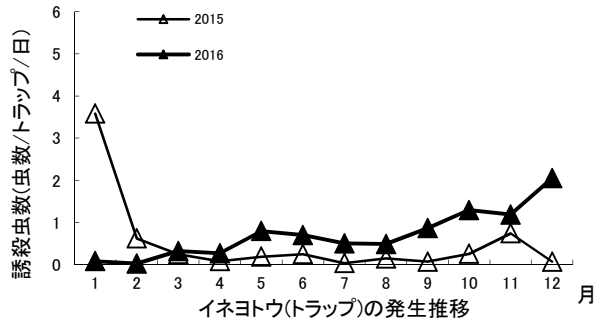
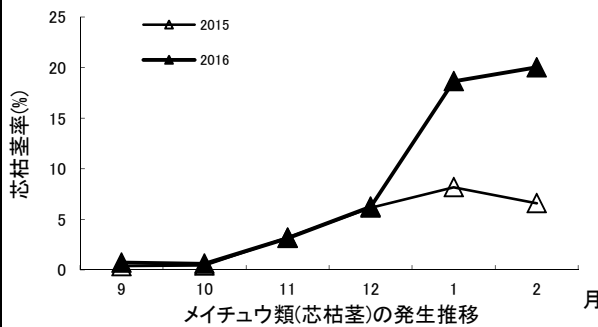
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 10月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は0.1%未満 (前年0.6%、平年0.9%) と平年並であった。
- ・ 10月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.5頭 (前年1.3頭、平年1.5頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

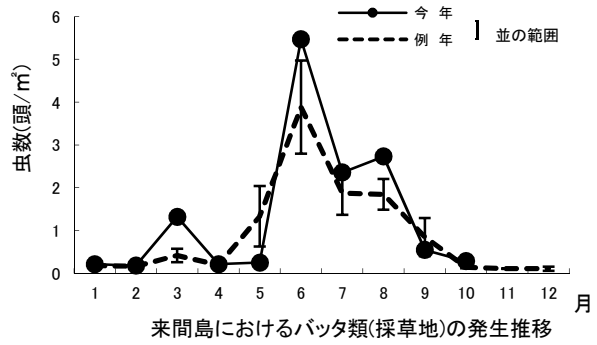
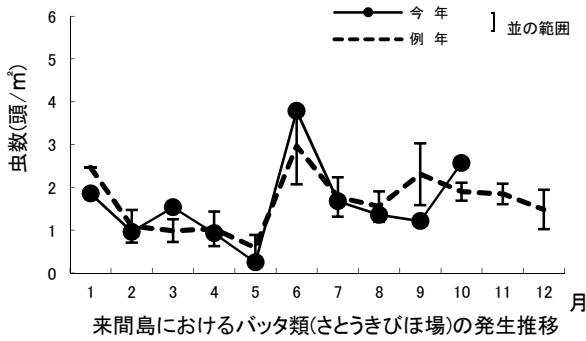
- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
10月の発生量(現況)	判定不可		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	来間島について、さとうきびほ場における成虫数の例年の発生推移から10月と同程度の発生量と考えられる。		

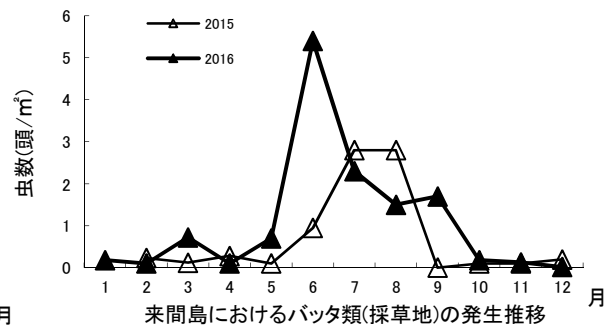
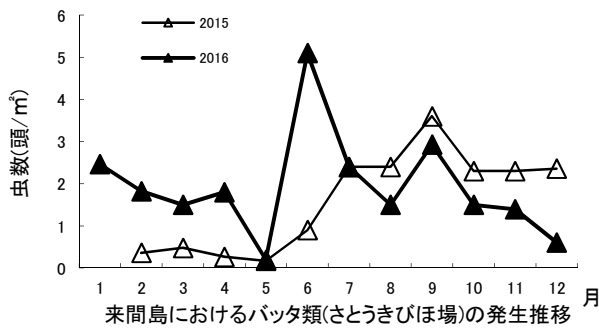
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 10月下旬の来間島での調査の結果、さとうきびほ場、採草地の平方メートル当たり虫数はそれぞれ、2.6頭、0.3頭であり、発生種は台湾ツチイナゴであった。
- ・ 防除員の報告によると、宮古島でヒゲマダライナゴ、台湾ツチイナゴが確認された。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

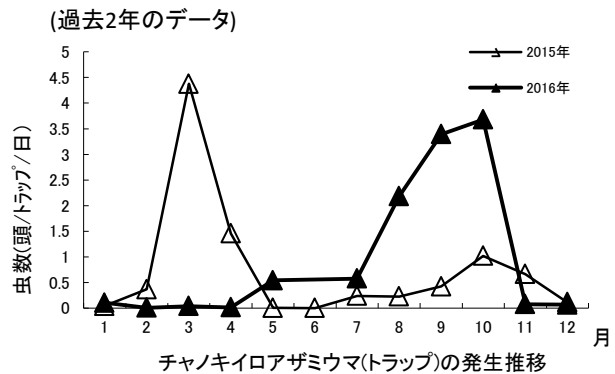
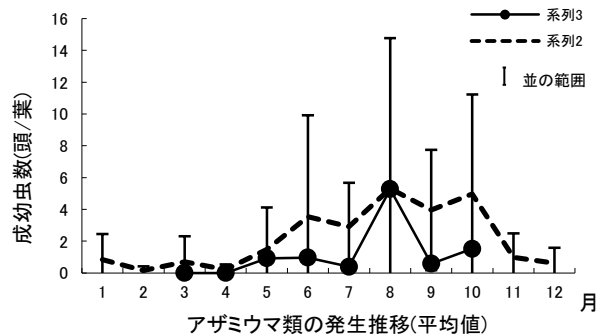
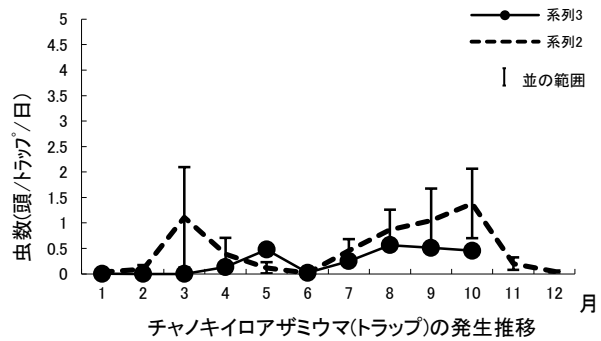
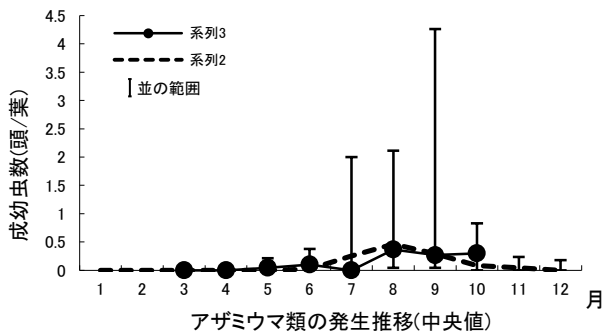
- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
10月の発生量(現況)	並		
11月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫及びトラップの平年の発生推移、新梢の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 10月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数(中央値)は0.3頭(前年0.1頭、平年0.1頭)と平年並であった。
- ・ 10月の黄色粘着トラップへの日・トラップ当たり誘殺虫数は0.5頭(前年3.7頭、平年1.4頭)と平年よりやや少なかった。

(今年のデータ)



防除のポイント

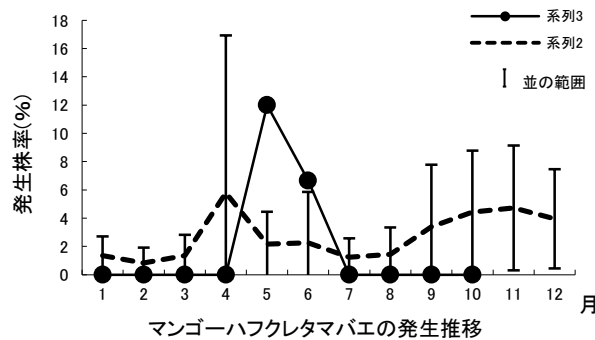
- ・ 不要な新梢は早い時期に除去する。
- ・ 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 平成29年度病害虫発生予報第5号(平成29年7月27日付)コラム参照。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
10月の発生量（現況）	(発生なし)やや少		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

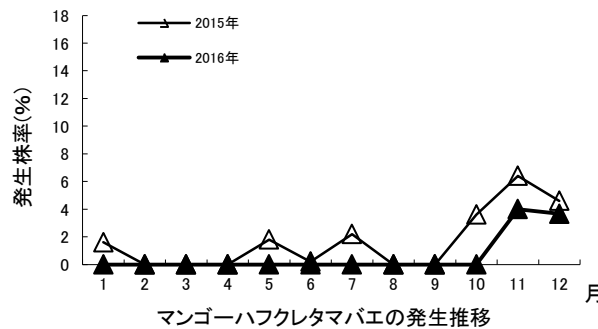
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、発生株率は0%（前年0%、平年4.4%）と平年よりやや少なかった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

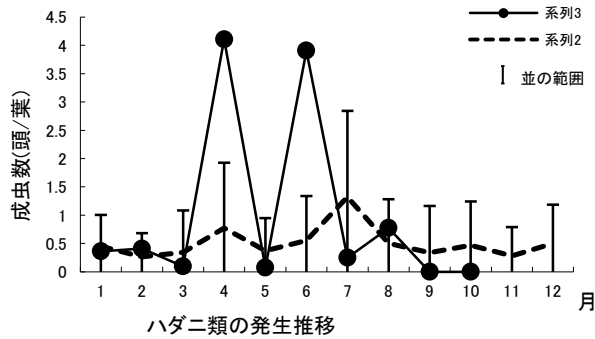
- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 平成29年度病害虫発生予報第5号(平成29年7月27日付)コラム参照。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
10月の発生量(現況)	(発生なし)並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

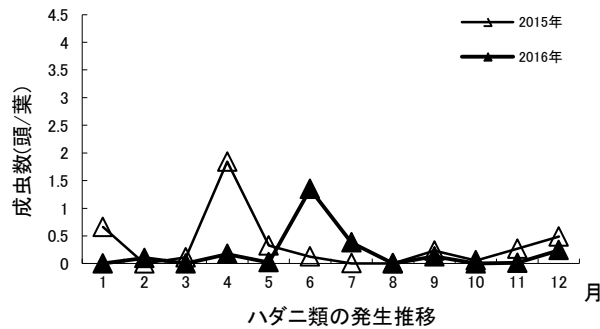
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 10月下旬の調査の結果、成葉の葉当たり雌成虫数は0頭(前年0頭、平年0.5頭)と平年並であった。また、新葉の葉当たり雌成虫数は0頭であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

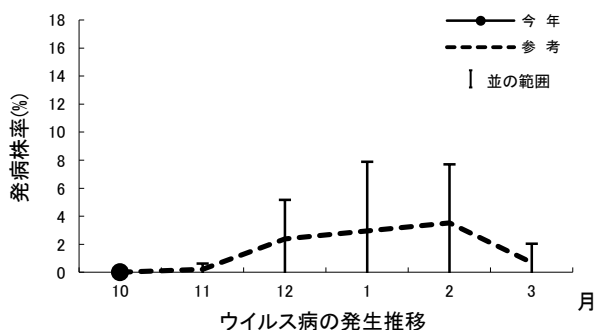
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 平成29年度病害虫発生予報第5号(平成29年7月27日付)コラム参照。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	① ウイルス病		
10月の発生量（現況）	(発生なし)並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移、アブラムシが発生していることから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

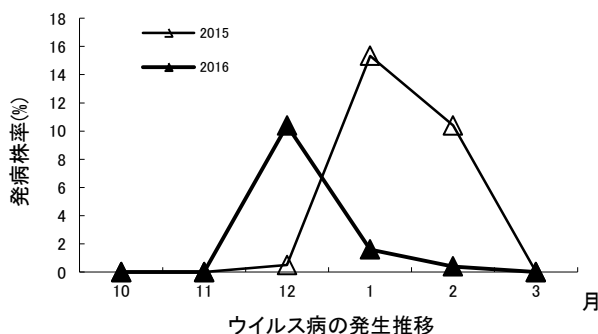
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、発病株率は0%（前年0%、平年0%）と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



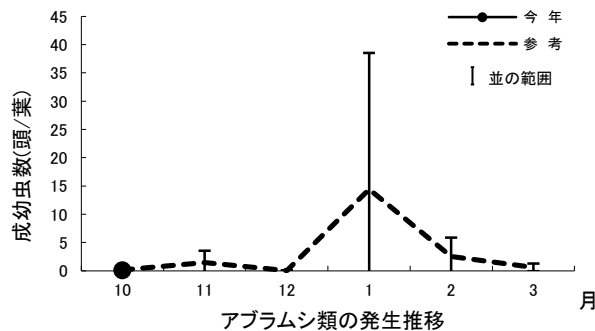
防除のポイント

- ・ ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 発病株は発生源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

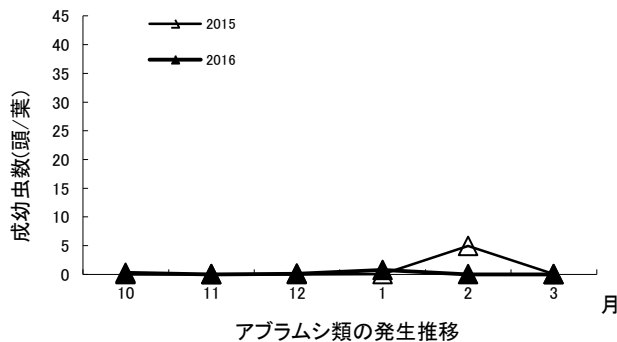
作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	② アブラムシ類		
10月の発生量(現況)	並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 10月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.1頭(前年0.3頭、平年0.2頭)と平年並であった。
(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

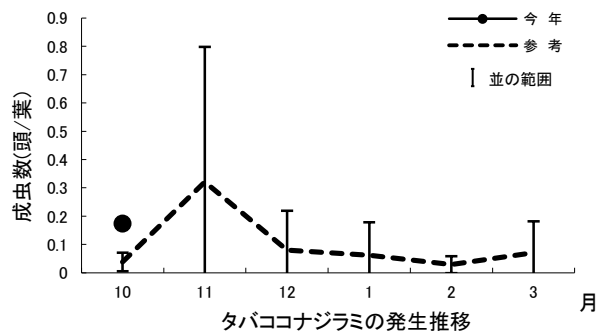
- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
10月の発生量（現況）	多		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

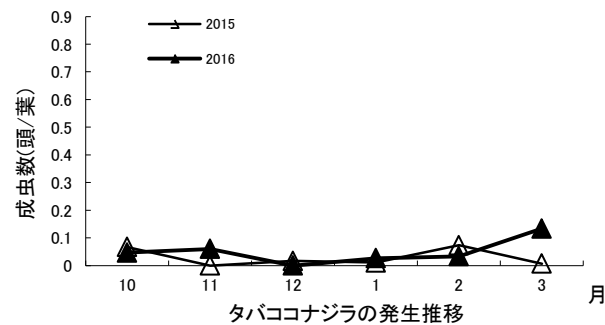
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.2頭（前年0.1頭、平年0.1頭未満）と平年より多かった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

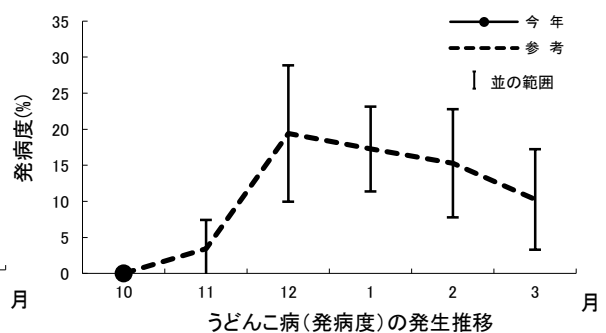
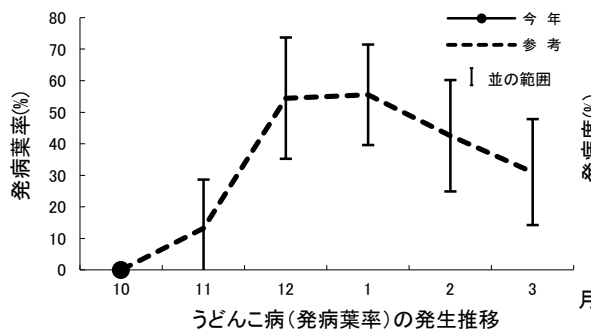
- ・ 多発すると白化症を引き起こし、生育不良となる場合がある。また、防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・ 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
10月の発生量(現況)	(発生なし)判定不可		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

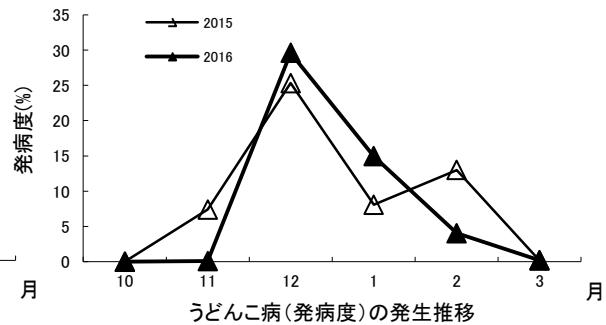
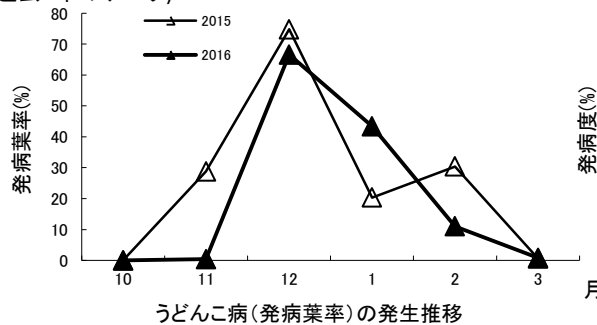
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 10月下旬の調査の結果、発病葉率は0% (前年0%、平年0%)であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

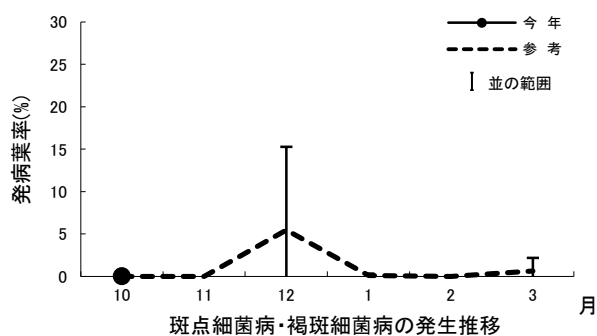
- ・ 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、葉の表裏をよく観察し、早期防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	細菌性病害		
10月の発生量（現況）	(発生なし)判定不可		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

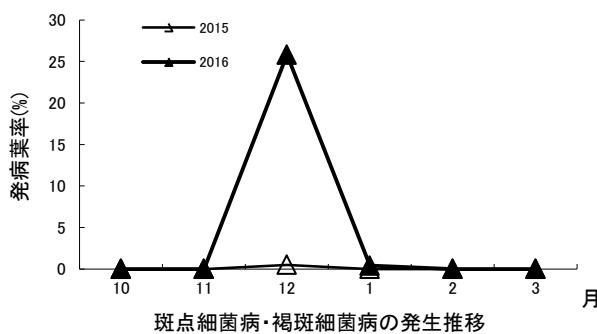
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、発病葉率は0%（前年0%、平年0%）であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

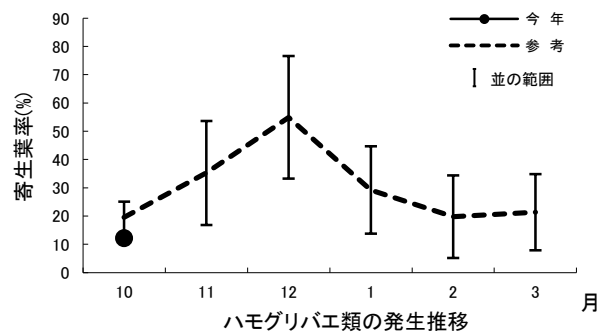
- ・ 降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。
- ・ 平成28年度病害虫発生予報第9号（平成28年11月25日付）コラム参照。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
10月の発生量（現況）	判定不可		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

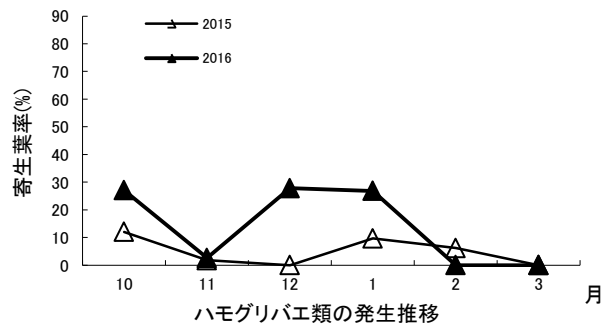
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月下旬の調査の結果、寄生葉率は12.1%（前年27.1%、平年19.5%）であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ ほ場内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・ 幼虫期間が比較的時間が短いので、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。